

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月18日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670400185
法人名	社会福祉法人 明星福祉会
事業所名	南方園グループホームけやきの里
所在地	鹿児島県枕崎市まかや町679番地 (電話) 0993-76-3462
自己評価作成日	令和3年10月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年11月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれ、四季折々の景色が楽しめるけやきの里では、1年中、花を育てており、敷地の畑では職員と一緒に野菜を育て収穫をしたりして楽しみや生きがいに繋げています。そしてコロナ禍で現在は行えていませんが地域向けに「けやきカフェ」を開店したり他施設との交流や行事に参加するなど地域の方々とのふれあいを大切にしています。庭にはけやきの大きな木があり、気候の良い日はそこでお茶会をしたり、花や景色を楽しみながらくつろいだりと憩いの場になっています。その他、レクリエーションなど日中の活動も支援しており、ご利用者が自分らしく主体的に生活できるように職員一丸となって日々の支援や認知症ケアに取り組み、みなさん明るく穏やかな生活をされています。行事などでは隣接する介護老人福祉施設と協力し、夏祭りや運動会など開催し地域との関わりをしています。防災訓練、職員研修なども積極的に参加し職員の質の向上に努めています。事業所内では認知症ケアの勉強会や事例検討を毎月行い職員の知識や技術の向上に努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、同法人の特別養護老人ホーム等に隣接して建てられている。コロナ禍の為法人での合同イベント等は自粛しているが、合同避難訓練や医師・看護師の協力、日頃の利用者への目配り等、法人内の協力体制が整っている。
- ・コロナ禍の為、地域との交流は困難な状況であるが、住民から野菜の差し入れがある。散歩やドライブで出会ったら挨拶を交わしている。
- ・家族との関係が途切れないように、面会や電話・手紙での交流を支援したり、写真・便り・動画で近況報告を行っている。外出や事業所単独の夏祭り運動会等を実施し、家族のコロナ禍による認知症悪化への不安に応える活動に取り組んでいる。
- ・管理者は、職員の意見を聞き業務改善に取り組む等、職員の意欲を引き出すように努めている。法人でも資格取得や研修受講の補助等で職員のレベルアップを図ると共に、休暇制度等の充実を図り働きやすい環境作りに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを大切にするこ とを理念に掲げ、併設の事業所 や他施設との交流会や行事に参 加する機会を設けている。	ホーム独自の理念を作り、理念 は目につきやすいホールに掲示 し、パンフレットやネームにも 掲載している。ミーティング時 に理念について話し合い、ケアの 振り返りもしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし 続けられるよう、事業所自体が地域の一 員として日常的に交流している	ドライブなど外出の途中で地域 の方々とふれあったり、コロナ 禍で現在は行えていないが、他 グループホームや施設との交流 会などを計画して行っている。	ドライブ途中で住民と挨拶を交 わしたり、住民からの野菜の提 供等がある。コロナ禍の為、高 校生の実習受け入れは自粛し、 認知症カフェを職員と利用者 のみで実施している。現在は地域 との交流は控えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げてい る認知症の人の理解や支援の方法を、地 域の人々に向けて生かしている。	ご家族からの相談や見学者、実 習生などを受け入れた際、認知 症の理解やケアの方法など説明 している。また市内の地域密着 型の事業所で関わりを持ち、地 域貢献や職員交流・研修に取り 組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービ スの実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	出された意見や要望はミーティ ングで取り上げサービスの向上 に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を隣 接する交流センターで実施し、 事業所のヒヤリハットを含めた 状況報告と意見交換を行っている。 行政からの情報提供や委員 の意見を職員で検討し、サービ ス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎月現状報告を行い、待機者の情報交換を行っている。入退居がある場合や介護保険に関することなど担当の福祉課の方に相談し、ご本人やご家族の望まれる生活を考慮している。	市の担当者とは、電話や報告等で出向いて相談し、助言を受けたり情報を得る等、連携を図っている。市の研修会には参加しており、リモートの場合、事前に出した質問への回答等から情報収集にも努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内及び外部研修会に参加し定期的に理解を深めている。基本的には施錠はしないようにしているが、職員体制が手薄になる時のみ玄関の施錠をしている。また、身体拘束防止の視点を含めた認知症事例検討を2ヵ月に1回行っている。	指針が有り、委員会及び研修を2ヶ月毎に実施している。身体拘束における事例を出して勉強会を行っている。スピーチロックは、気付いた時に職員間または管理者から注意を促している。玄関の施錠はせず、外出希望者には一緒に散歩して気分転換を図っている。法人内の職員の目配り・協力も得て、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内及び外部研修会に参加し理解を深めている。また、認知症の方の思いが理解できるように特に力を入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内及び外部研修会に参加し理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、生活やケアの方針に対する考え方や取り組みについてを説明し、要望や気になることの聞き取りをしている。改定があった時は都度必要な変更を行い説明をして同意をもらっている。退居時についても意見を聞いたり助言をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議やけやき便り、面会時などで現状を報告し意見や要望など伺っている。また、毎年アンケートを実施している。出された意見や要望は、サービスに反映するようにしている。</p>	<p>利用者には、日常の暮らしの中で意見を引き出すような言葉かけをしている。家族には面会時やアンケートで要望を聞いており、玄関で15分間の面会を実施している。毎月、だよりを送付し何か変わりがあれば電話や文書にて状況報告している。コロナ禍の為の活動制限から精神面の不安定や認知症の悪化を心配する声があり、外出の再開や事業所単独の運動会・夏祭り等の実施に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月代表者へ現状報告や意見を述べる会議がある。事業所では気づきや感じたことをノートに書くようにしてミーティングで取り上げ検討し、サービスに繋げている。</p>	<p>管理者は話しやすい雰囲気心がけ、ミーティング事前にテーマを決めて職員からの意見を聞いている。消毒方法の手順書を作成する等、職員の意見を業務改善に反映させている。個別相談は管理者が対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の休憩時間をはっきり決め、時間外労働をしないように行事などがある日には勤務態勢を調整している。また、休みの希望や有休など可能な限り応えるように勤務表を作成している。やむなく超過勤務をする場合には手当をつけている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修（現在はオンライン研修に参加）の参加している。事業所内でも毎月勉強会を行い、研修記録を記入して力量を把握している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在はコロナ禍で行えていないが市内の地域密着型事業所間で、顔の見える関係作りのために交流会や職員研修会を開催したり地域貢献の為の活動に取り組んでいる。また法人内でも現状や事例を報告する機会がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接に出向いてご本人や担当職員と話をしたり、見学などして頂き、ご本人、ご家族にここでの暮らしぶりを見てもらう機会を作っている。パンフレットも暮らしぶりがわかるように見直しを実施。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での状況や以前の介護保険サービス状況について尋ね、事業所としてどのように対応できるか話し合い、ケアプランに反映している。また、契約時に不安なことや要望など聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望があれば他のサービス（デイケア）などの利用も可能であることを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け、洗濯物など生活のなかでできる役割を持ってもらい、花壇の手入れや野菜作りなど職員・ご利用者と共に取り組み、お互いに支え合う関係を意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やけやき便りにて生活状況を伝えている。必要に応じて文書や電話で連絡し、近況報告や要望を伺っている。コロナ禍においては、窓越しや衝立越し、オンライン面会など制限下のもとでできる面会を推進し、行ってもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの時は、ご利用者の地元を通ったり、可能な方は墓参りなど支援している。コロナ禍においては馴染みの人や思い出を会話に取り入れ忘れないように支援している。	馴染みの訪問美容師の利用や自宅付近へのドライブに出かけたり、家族との面会・電話・手紙での交流や事業所からの近況報告・写真・便り・リモート面会等で、馴染みの関係が途切れないように努めている。知り合いなども電話で取次して対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶を入れ合ったりお互い手を差し伸べたりと仲の良い入居者同士がお互いに助け合いやすい座席の配置などを考慮している。また、入居者同士の会話や関係が繋がるように職員が気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他関係職種と連携のもと相談や助言をして退居後の不安に寄り添うようにしている。去年は思い出の写真をもとめたスライドショーのDVDを退居後の方へも配布した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のご利用者の表情や言動などの様子、またご家族からの情報を基にして、思いや意向をくみ取るように努めている。事例検討もよく行い、思いや背景の把握に努めている。	日常の会話の中で、本人の言葉や思いを引き出すように働きかけている。困難な場合は、家族や職員の情報を参考に日頃の関わりの中で把握した利用者の言動について検討し、思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時のカンファレンス（専用聞き取りシート活用）、ご家族の面会時や本人との語りの中で察したり伺うなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の表情や気分の観察を常に心掛け、主体的に過ごせることを支援している。その人のできること、できそうなことを促している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り・気づきノートなどの記録やチェック表を基にご本人、ご家族、職員から意見を収集したり話し合いをして、ご本人の望む生活を支えることを心掛けてケアプランを作成している。基本3ヵ月毎にモニタリングを行い、計画の見直しや修正を行っている。	本人や家族の思いを聞き、職員で話し合い介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に実施し、変化のない利用者は6ヶ月で振替りをしている。状況変化時に見直して、現状に即した計画にしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り・気づきノートをホールへ置きいつでも記入、観覧できるようにしている。ノートを基にミーティングや引継ぎ時の申し送りで取り上げ情報の共有を図っている。ケース記録に記入、必要に応じてプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、買い物や通院の代行支援などを行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの飲食店や美容室や温泉、教会やお墓参りに行くことをご家族の協力ももらいながら支援している。（コロナ禍では未実施）		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を確認しながら、事業所の協力医や以前からのかかりつけ医と連携をとり、通院や往診など必要なときに、適切に医療が受けられるよう支援している。	契約時にかかりつけ医を確認し、全員協力医療機関である。隣接の特別養護老人ホームの医師及び看護師の協力を得て、適切に受診ができるように支援している。往診は月1回ある。24時間対応で緊急な時や夜間の場合は協力医に相談し緊急搬送をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属・併設の看護師と連携し健康面の相談をしている。また、併設施設の看護師へ入居者の情報を提供し、緊急の場合など夜間も含めいつでも相談できる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院担当者と連絡を取り情報交換や相談をしている。母体の病院との報告会や交流会、市が開催する専門職の研修会など病院関係者と関係を築ける場もあり、連絡体制も構築されている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にご家族へ重度化対応・終末期ケア対応指針を説明して理解を得ている。又、アンケートを取り、ご本人、ご家族の希望を踏まえて看護師や主治医、協力医の指導のもと希望に添えるよう努力している。	契約時に終末期の指針で、重度化の場合の対応について選択肢も含めて説明し、同意書ももらっている。延命治療については再度意向を確認し、家族の意向に沿って支援に取り組んでいる。最終的には入院希望が多く、特別養護老人ホームの希望もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、看護師や併設施設の看護師などに協力をもらい昼夜とも対応できるマニュアルを整備している。事業所勉強会でも年に1回以上手順の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震や土砂災害を含めた防災・避難訓練や消火訓練を併設の事業所や地域の消防団などと連携し実施している。全国防災訓練（水害）にも参加している。コロナ禍では机上訓練を行っている。</p>	<p>年2回の事業所自主訓練を昼夜想定で実施している。年1回、法人全体の合同訓練を夜間想定で実施し、消防署及び消防団の参加がある。緊急通報装置には住民代表の登録があり、地域との協力体制を築いている。災害用の備蓄は、缶詰・インスタント食品・水・米等を、カセットコンロも含め、法人全体で3日分を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの生活歴や認知症の程度、日頃の様子から読み取れる情報をミーティングなどで話し合い、プライドを傷つけない関わり方に心掛けている。	接遇の勉強会を行い、人格の尊重とプライバシーを守り資質向上を図っている。言葉遣いや正面からの声掛け、入浴の同性介助や排泄介助時のさりげない声かけ等、申し送り時は名前は出さずに行っている。誇りやプライバシーを損ねないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症ケアの勉強会と合わせて自己決定の重要性の理解に努め、日頃の声掛けを本人主体になるように心掛けている。外出や入浴、活動などはもちろん居場所や過ごし方など希望を伺いながら援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時などそれぞれの時間で行動しており、普段の過ごし方や食事、入浴もその人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節毎に衣類をタンスに準備して、自分で選んでもらい、できない方は職員と共に選び支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りなどの準備や片付けを行っている。又、パン作りやパイキング、外で食事をするなど企画し楽しい雰囲気作りに取り組んでいる。食事形態や量、好みも配慮している。	献立は職員が作成。菜園の野菜を活用し、個々の食事形態で提供している。利用者の希望や好みを取り入れて食事作りをしている。下ごしらえや茶碗洗いを一緒にしている。誕生会の特別メニューやパイキング・行事食・パン作り等、楽しい食事になるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を用い、野菜とタンパク質を多く使った食事を提供している。水分は味や温度など考慮し準備している。食事・水分量が少ない方へはチェック表を用いて本人の好みや能力に合わせた工夫をしている。また、天気の良い時は庭でお茶会をしたり屋内では音楽を流したり雰囲気作りにも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、できる方へは声掛けにて口腔ケアを促し、自力で難しい方は義歯洗浄、仕上げ磨き、うがいなどできない部分を個別に支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を基に入居者個々の習慣や機能に応じた排泄援助を行っている。可能な限りトイレで排泄できるように支援している。おむつ使用の方も漏れのないように種類や交換の目安の調整を行っている。	排泄記録から時間をみてトイレ誘導の声かけを行っている。日中は全員トイレで排泄している。パット類は尿量に見合った適切なものを使用している。夜間は身体状況に応じて、ポータブルトイレの使用やベッド上のパット交換も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のお茶の時はおやつに芋を主に使っている。食物繊維を多く取り入れた献立にしたり水分を多く摂ってもらえるよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めているがご本人の希望や気分に合わせて柔軟に対応している。できる限り一人ひとりのペースでゆっくり入れるように努めている。	週3回午後に入浴を実施している。時間は希望等で柔軟に対応し同性介助も実施している。1対1の介助で好みの湯温で楽しんでおり、冬はゆず湯もある。汚染時は陰部洗浄やシャワー浴を実施し、気持ち良く過ごせるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝、昼寝などその都度ご本人に伺いながら希望に添った対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理のファイルに一人ひとりの薬の説明書を綴っており、全職員がいつでも見れるようにしている。また、必要に応じてバイタルチェックの回数を増やし記録をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日常生活の中で家事や食事作り、畑や庭や花の手入れなど可能なことは一緒にできるように支援している。また、事業所の行事がある毎に声を掛け気分転換や楽しみになっている。日々の中では雑誌などの本を準備、テレビでは録画番組やDVDを上映をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>その日の希望で外出は職員体制によってできないことが多いが散歩や定期的にドライブを実施している。家族へも外出を勧めており、連絡があれば準備や段取り、車の乗り降りなど安心して外出できるように支援している。（コロナ禍では未実施）</p>	<p>外出の機会が以前より少なくなっているが、少しでも外出できるように、天気の良い日は敷地内や近隣の散歩をしている。少人数のドライブを月1~2回計画し、茶・菓子・弁当持参で公園の花見にも出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一社会人としてお金を所持することの大切さを理解し希望や能力に応じてお金の所持を支援している。所持が困難な方は預り金という形で金庫で管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人の希望や連絡したい様子が伺えたらその都度支援している。ご家族へも面会時などに了解を得ている。オンライン面会も家族へ案内や説明を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	老人車や歩行器、車椅子の方の移動のしやすさや、過ごしやすい室温や湿度、換気に配慮している。また、庭に季節の花を植え、仏壇や玄関、ホールには季節の花や飾り付けをして水槽で金魚を飼っている。食事やお茶の時は音楽を流している。	採光が入り明るく開放感がある。空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な室内環境である。換気も十分行っている。室内は季節の作品が飾られ、テーブルやソファを車椅子等の移動に配慮して配置し、利用者がベランダでお茶や日光浴をしたり、好みの場所でくつろげるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、仲の良い人同士自由に話をしたり、テレビを観たり、本や新聞を読んだり、昼寝などされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅よりダンスや座椅子や写真など使い慣れた家具や身のまわりのものを持ち込んで頂いている。又、各部屋にボードを設置してご本人の写真や作品を飾って不安なく暮らせるように支援している。	居室は腰高窓があり採光が入り明るい部屋である。ベッドやダンス・エアコン・押し入れがある。使い慣れた寝具や衣装ケースを持ち込んだり、遺影や写真・時計・ぬいぐるみ等を身近に置き、安心して過ごせる部屋作りである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールやトイレには手すりを取り付け、能力に応じてベッドに移動バーをつけたり、高さを調節したり一人で立ち上がったり移動しやすいように工夫している。また、トイレや自分の物や部屋がどれか困らないように表示をしている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない